

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0770401495		
法人名	有限会社 そら		
事業所名	大地の家		
所在地	福島県いわき市四倉町字西三丁目12番地の15 (電話)0246-32-6011		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	平成19年11月30日

### 【情報提供票より】(2007年10月16日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算 9.6人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,500 円		

#### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	7 名	男性 1 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.7 歳	最低 79 歳	最高 85 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人管波病院
---------	----------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

親しみやすい昔風の建物になっており、居間には畳みと掘りごたつと囲炉裏が設置されており、廊下のところどころにテーブルと椅子を置くなど利用者が自然に集まれる環境になっている。時間に縛られず利用者と職員が穏やかに一日を過ごしている。また、年に1回は家族とともに一泊旅行にでかけ家族と触れ合う時間を設けている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題のケアプラン作成については、現場の意見を取り入れたケアプラン作成を行うなど職員全員で話し合い行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今までは管理者中心に取り組みを行われていたが、今回からは職員全員に評価の内容を理解してもらうため、職員中心に行われている。管理者は助言を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議では区長をはじめ地域の方々や家族が参加し、事業所のサービスや行事について、報告会や話し合いが行われている。また、運営推進会議で出された地域の情報を基に祭りや行事に参加している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を設け意見や要望を出してもらい、出された意見等について実際に事業所での様子を見て頂いたり、細かく説明したりして一つ一つ丁寧に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	婦人会に参加したり、利用者と一緒に散歩がてらゴミ拾いを行っている、また、近くの保育園や小・中学校や高校の文化祭や隔週発表会や運動会に参加している。また、地域の人が事業所へよく訪問する。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「穏やかな日常生活の実践」という考えで、日々一人ひとりの尊厳を大切にしたい理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対し理念に基づいた指導や助言を行い、職員は理念に基づいた日常生活が送れるように利用者と接している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	婦人会に参加したり近くの小・中・高校生の運動会や文化祭などに招かれ参加している。また、週に1回は利用者と一緒に散歩がてらゴミ拾いを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題のケアプラン作成についての取り組みについては、現場の意見を取り入れたケアプラン作成を行うなど職員全員で話し合い改善している。自己評価は今までは管理者が中心となっていたが、今回は職員が中心となり話し合いながら行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>区長をはじめ地域の方々や家族が参加し事業所のサービスや行事について、報告会や話し合いが行われている。また、運営推進会議で出された地域の情報を基に祭りや行事に参加している。</p>		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「大地の家新聞」を発行し、それぞれの担当職員が利用者の様子を記載している。その他、面会時に報告している。しかし、職員の異動や退職については家族会等で口頭で伝えている。</p>	○	<p>家族等への職員の異動や退職に関する情報が早く正確に伝わるよう「大地の家新聞」等の活用を検討してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け意見や要望を出してもらい、出された意見等について実際に事業所での様子を見て頂いたり、細かく説明したりして一つ一つ丁寧に対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の事情などにより同法人間の異動は年1回行われている。そのため、日頃から同法人との交流を持ち利用者と職員が顔なじみの関係になれるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、法人主催で職員と家族が参加できる研修を行っている。また、研修に参加できなかった職員に対しても勉強会を行っている。しかし、参加した研修の復命書や資料については、きちんと整理されていなかった。	○	参加した研修の復命書や資料をその後に活かせるよう、見やすいように整理してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外を問わず多くの勉強会や福島県グループホーム連絡協議会に参加したり、いわき市グループホーム連絡協議会の役員になり情報を共有している。さらに、県外のグループホーム職員と交換実習を行い、質の向上に取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に囲炉裏の炭おこし、果物の皮を使ったお菓子作りや漬物のつけ方を教えてもらうなどして、お互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望があれば即対応するなど、日常の会話の中から利用者の思いや希望を探り、それらを叶えてあげられるよう実現に向け取り組んでいる。また、利用者の満足度を高めるための方法を常に職員間で話し合っている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングで変わったことや気づいたことを話し合ったり、家族が面会に来たときに話を伺い、情報を集め介護計画を作成している		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しと職員や家族からの情報を基に随時介護計画の見直しを行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の診察の他に、以前からのかかりつけ医の往診が行われている。また、気軽に立ち寄ってくれる医師もおり、医療的な診察や助言を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療依存度が高い場合は、家族と相談し、利用者や家族の意向に沿った支援を受けられよう検討し、情報を共有している。また、グループホームでは、運営法人の看護師に協力してもらい、終末期の対応を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティング等で常に利用者のプライバシーを尊重した対応の見直しや確認を行っている。個人情報の取り扱いについては、職員に入社時と毎日のミーティング時に話し、また来所したボランティアの方へも話している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の意向で食事のメニューを決めたり、畑仕事や外出支援を。利用者の希望に添って一日を過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは、畑でできた野菜を見て楽しく食事ができるよう利用者と相談して作っている。調理、準備、食事や片付けも一緒に行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上は入浴ができるようにしている。月1回は市内のいろいろな温泉施設に出かけ、入浴を嫌がる利用者の方も楽しく入浴ができるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	居室を「家」と考え、隣組を作り順番でそれぞれの居室に集まりお茶会を行っている。組長になった方は自ら廊下などの掃除を行っている。畑づくりや洗濯物干しや洗濯物のたたみは利用者が行えるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	病院受診や美容院に歩いて行き、帰りに図書館や喫茶店に寄ってきたり、利用者が新聞や広告を見て行きたいと希望があればすぐに見えるようにしている。また、家族とともに旅行に行くなど支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけていない。利用者と職員の出入りは、常に見通しのよい食堂に隣接したテラスを利用し、職員が観察しやすいように工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を月1回行っている。さらに1本のロープに赤い目印を付け、9人の利用者がそこにつかまり一緒に非難できるよう工夫している。しかし、地域の消防団に協力をお願いしているが協力を得られていない状況である。	○	運営推進会議へ消防関係者を委員として参加いただくなどして、地域全体の協力が得られるよう働きかけてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量等の摂取量は一目でわかるように記録されている。献立については、運営法人の栄養士や家族の管理栄養士の協力を得ている。また、下剤を使わずに排便が行われるよう取り組んでいる。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「昔から住んでいる。」という雰囲気のある建物を作り上げ、冬は利用者と囲炉裏を囲み芋を焼いたりしている。居間や廊下には椅子とテーブルを置き何気なく集まれるような環境になっており、一日中利用者が集まっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで利用していた家具を置いたり、必要がない利用者は備え付けの家具を利用したり、それぞれの個性に合わせた居室になっている		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	大地の家
記入担当者名	上面 裕子

評価結果に対する事業所の意見

特に無し

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。